



Title	創立三十周年を祝う
Author(s)	橋本, 道夫
Citation	makoto. 1977, 20, p. 4-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86160
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

創立三十周年を祝う

環境庁大気保全局長

橋 本 道 夫

大阪防疫協会の創立三〇周年にあたり心からお祝いの言葉と、今までの御努力に対する感謝の言葉をお送りいたします。

活動を開始された昭和二十二年と言えまだ終戦後の苦しい時代でした。現在の若い人々には想像もつかないような食糧の不足と、伝染病の多発と、戦後の経済の混乱の中から新しい保健所を主体とした公衆衛生行政が生まれ出た年でした。昨今のコレラ騒ぎのときにふとその頃を思い出したような次第でしたが、理事長の辻野さんも恐らく同じ思いをいだかれたのではないでしようか。大阪府下の防疫活動を民間団体として支えて来られた防疫協会とし、今も又治に居て乱を忘れずのいましめを常に堅持して居られることと思います。急性伝染病の防疫活動や、災害時の防疫活動に対して防疫協会がどれ程大きな貢献をして来られたかということは、

大阪府下の衛生行政に関係した多くの人々が今もまざまざと記憶しておられることでしょう。私も大阪府の保健所と衛生部で働いていた一人として当時の防疫協会の活動や、辻野さんの府庁内の協会の事務所での御様子などをこの文章を書きながら思い出しています。二十年代の後半の蚊とはえのいない生活の推進のための地区組織活動に対する防疫協会の変らぬ参加協力が本当に欠かせないものでした。衛生婦人奉仕会の方々や、町内会、部落会の人々、市町村の衛生課の方々とはよりよい環境をつくり出すための燃えるような活動は本当に有意義な忘れられない体験でした。私は三十二年から厚生省に参りましたが、三十六年から環境衛生の担当になり、そこでビル管理という新しい分野の仕事に接することになりました。この分野は今後の大都市の環境衛生にとって大切な又一方

で有望な仕事だなあと思っている矢先に、辻野さんが見えなくなって防疫協会としてもこの分野に業務を拡げて行くことをうかがって、大阪という商人の街の誇りとする進取の気性を強く感じました。万博を開催するという歴史的な世紀の事業を成功させるために、防疫協会がその裏方として活躍されたことも又忘れられない大きなお仕事であったことでしょう。

四十年代の中頃から、水俣病による有機水銀汚染問題、PCBの汚染と毒性問題、DDTなどの有機塩素系殺虫剤等による自然界の生態系破壊問題などの科学的知見が明らかになるにつれて、DDTやBHC等の殺虫剤の規制がとりあげられ、使用禁止にいたるものも次々と表われて来ました。戦後の防疫活動や昆虫駆除に従事して来たものにとっては、全く面喰うような事態のようにも思われた方々が

あることでしょう。防疫協会の歴史の中でも新しい時代に否応なしにつれこまれたとも言えるでしょう。人間と化学物質と自然界の生態との間には単純に一つの尺度だけでは割り切れない複雑な関係があることを知らされたわけですが、マラリヤの恐威に直接さらされている開発途上国や、急性伝染病の大流行が日常みられるような時代には、このような問題は又違った対応が考えられるのでしようが、日本のような公衆衛生や医療が発達し、急性伝染病やマラリヤの問題もまず克服している国にとっ

ては、殺虫剤が及ぼす好ましくない副作用をさけるために有機塩素系の殺虫剤の使用禁止や、使用上の厳しい基準を設けることが必要になったわけですが、これは何も従来からの平常防疫活動の必要性を否定したわけではありません。防疫協会としてもより高度の科学や技術を活用して活躍しておられるわけです。私はどんなに公衆衛生や、生活水準が改善されても、日本のように一億一千万人をこえる人口の大半が、国土のごく僅かな面積の中で生活し、働き、動きまわっているからには平常時の防疫活動としての鼠、昆虫駆除